



TITLE:

静脩 Vol. 29 No. 3 (1993.1) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 29 No. 3 (1993.1) [全文]. 静脩 1993, 29(3)

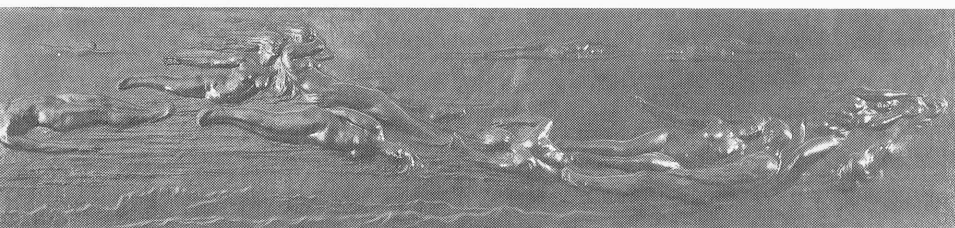
ISSUE DATE:

1993-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/66006>

RIGHT:



The Kyoto University Library Bulletin

静脩

1993年 1 月

Vol. 29, No 3

「旭江文庫」の生みの親大賀寿吉氏のこと

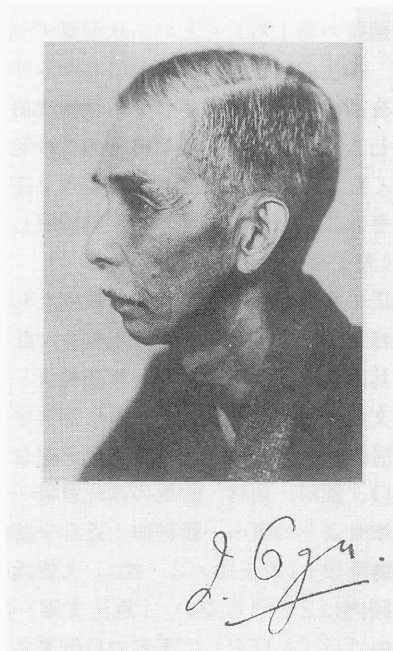
文学部教授

岩 倉 具 忠

「小生の文庫も追々に蔵書の数を増し目録を作らねばと存居申候へども時間も思ふに任せず止むなく打捨居申候 実とはかねて御承知の通り小生英語以外は一向に了解不仕従て蔵書も自分には読めざるもの多数ながらそれを眺めて喜び居り候は自分ながら偏なものとあきれ居候事にてただただこれらの書物を読み役立てらるる人を相待申居候事に御座候」。これは附属図書館所蔵の「旭江文庫」の生みの親である大賀氏（1870—1936）がダンテの『神曲』を翻訳中の山川丙三郎に送った大正十一年四月十四日付の書簡の一節である。大賀氏はやや自嘲気味にいかにも自身を単なる好事家であるかのように語っているが、氏はダンテとイタリア中世文化にきわめて造詣の深い一家をなした学者であり、しかもつねに愛蔵する書物を惜しみなく研究者に解放し、後進のために役立てることを願っていた。ここには大賀氏が「旭江文庫」を形成した蒐書方針がさりげなく語られているのである。

「旭江文庫」についてはすでに本紙上や京大広報等で紹介されているので、この度はこの類例を見ない文庫を築き上げた大賀氏の周辺を探ってみたい。実はそのためにたいへん都合な資料が残されている。先にその一部を引用したが、山川丙三郎に宛てて大賀氏の書き綴った二百通にのぼる

膨大な書簡がそれである。この書簡からは大賀氏の人となり存分にうかがえるばかりでなく、ダンテ研究家としての蒐書への情熱が読むものにひしひしと伝わってくる。またそれは大正から昭和の初めにかけての日本におけるイタリア研究の実情ならびに文化全般にわたる詳細を如実に映し出すまたとない史料でもある。



大賀氏は岡山出身で、この都市を貫流する旭川にちなんで「旭江」を号とした。文庫の名称もそれに由来する。大賀氏は大阪の武田製薬株式会社に勤務するかたわらダンテ研究に心血を注ぎ、終生ダンテ文献の蒐集に文字通り挺身した。氏の蒐書は興味本意の好事家のそれとは程遠く、ダンテ学者としての見識に基づく選書基準によって厳密に学問的価値のある質の高いもののみを対象としていることは万人の認めるところである。それだけに情報量の乏しかった当時蒐書がいかに労苦の伴う作業であったか、また待望の書物を入手した時の喜びがどんなものであったかがその書簡の行間からうかがえるのである。氏はまた研究者にダンテ文献に関する貴重な情報を提供し、学問的助言を呈し、書物を寛大に貸し与え援助した。のみならず自身もダンテ学の普及のために進んで啓蒙的役割を果たした。そんなわけで次の一節のように、山川丙三郎には翻訳上の細部にわたる助言を惜しまなかったばかりか、滞りがちの筆を啣つ訳者を慰撫することさえしばしばであった。「『新生』御翻訳進み不申由御申聞御至理に存申候 かかる書物の翻訳は決して急ぐべきにあらずゆるゆる御心持の向ふままに御策遊ばされてこそと存候事に御座候 近頃ことに拙速に走りて一夜漬の著述翻訳雨後の筈よろしくといふ状況難すべき事に御座候 小生の如きも不幸にしてしんみり勉強も不致一夜漬の講演に其場をつくらひ候次第実に御恥づかしき限に御座候 但し自分のこの恥を感ずこと深く従て一人にてもダンテの如きを深く研究さる人をおこしたしとあせり候次第御察しされ度候」(大正12・7・6)。

大賀氏の書簡からは京都大学の教官たちとの交流の様態もうかがえる。「ダンテ永眠六百年記念会の儀其内京大の浜田博士等と相談相決し度存居申候 文科の教授連を会員とせる京都文学会にて発行致居候『芸文』は九月号をダンテ記念号といはし坂口、浜田、新村、厨川の諸氏執筆……小生にも執筆せよとの事……新村博士近日来訪相談ある筈に御座候」(大正10・2・20)。大賀氏の際限は国内にとどまらない。「旭江文庫」所属の書物の中には「とびら」に著者の自筆署名や献辞

の記されたものが少なからずあって、大賀氏と西欧のダンテ学者との親交の跡が偲ばれる。たとえば近世イタリア哲学の泰斗クローチェや英国の著名なダンテ学者トインビーなどと文通があったことは書簡からも知られるのである。

大賀氏の書簡を通して、大正から昭和にかけて日本ではダンテへの関心が高まり、多くの翻訳や著作が世に出た様子が手に取るようにわかるが、氏はそうした傾向を喜ぶ一方で、その多くが浅薄な半可通であることを慨嘆している。新潮社版「世界文学全集」に収められた生田長江訳の『神曲』には、よほど堪えかねた様子で、次のようなくだりがある。「生田訳神曲一読仕候。『何でも屋』を誇る人がかかる傑作を訳するは冒瀆とも感ぜられ不真面目なる序文アキレ申候。貴訳利用と思はるる所不少候」(昭和4・9・19)。「我国にも此頃は折々ダンテに関するものの刊行せらるる様に相成り感謝にたえざる事ながら、さて其内容を見れば腹立たしくもあり、なさけなくもありという次第なるは残念に存申候。『万有文庫』の神曲、新生及び詩集の訳、これは己刊の日本訳をくづしたるものなるべく、ダンテを全く台なしにいたし申候」(昭和2・11・13)。これに対する山川丙三郎の返事(下書き)には「惣じて近頃書肆にあらはるる訳本や批評類にはいかがわしきもの多く……去年出版されしダンテ小詩小曲集なるものは久保正夫氏のダンテ詩集を口語に直したるものなること明瞭にてそれも序文に何等久保氏のことを記し置候ざるは不徳の仕打と存候。他人の訳ばかりを台にして自訳を製造する発明人は日本にのみあるにあらずやと存じその勇氣におどろくの外無之候。」

(昭和2・11・24)とある。ちなみに大賀氏は当時ダヌンツィオとの華やかな交際で大衆的人気を博していた下位春吉について、「下位氏は何か名を売るに急なるやに相見へ小生などとはやり方大に異なるやに思はれ申候」(大正10・2・20)と批判している。

最後に一昨年大賀氏の令孫松井恵美子氏から附属図書館にご恵贈いただいた大賀氏所蔵のダンテの胸像(次頁写真参照)については次の一節が見られる。「独逸の一友人より贈与のダンテの胸像

(ブロンズ製) 近日到着の筈に御座候 多分相当芸術的価値を有するものと信じ申候が果して実際に相当に見らるるものにててもあれば写真葉書を作り度存居申候」(大正10・4・1)とある。ただし胸像到着後の模様についての記述は見当たらなかった。大賀氏が胸像の「芸術的価値」についてどんな判断を下したか聞けないのが残念である。

付記 文中引用した大賀氏の書簡は、「イタリア学会誌」3、7、8、9の各号に分載された「大賀寿吉氏の書簡」(木村文雄編)による。



御存知ですか? — 附属図書館サービス紹介

附属図書館には現在73万冊を越える図書と1万9千余のタイトル数の雑誌を所蔵しています。これらの資料や本図書館をより有効に利用していたくために、今号より、利用のしかたやサービス内容について、順次紹介していく予定です。今回は、カウンターでよくお尋ねのある事柄からその一部をご紹介します。なお、次頁に附属図書館の開館日とサービス内容の一覧を掲載しましたのでご覧下さい。

《資料の探し方》

附属図書館には京都大学の全学の総合目録があります。図書の場合、1985年3月以前のはカード目録で、それ以降のものは端末(オンライン目録)とカード目録を併せて検索して下さい。端末で検索した場合には、書誌情報の画面でファンクションキーA4(所蔵のキー)を押すことで、その図書が開架か書庫にあるかが分かりますが、カード目録で検索した場合は分かりません。どうぞカウンターでお尋ね下さい。

雑誌の所蔵状況・所在の検索は端末か冊子体の雑誌目録をご利用下さい。

文献の探し方がわからない、あるテーマに関する情報を提供してほしい、という時は参考調査サービスをご利用下さい。

《資料の配置について》

★附属図書館の図書の分類には1982年までの「京都大学附属図書館和漢書分類法」「同洋書分類法」(旧分類)と、1983年から使用している国立国会図書館分類(新分類)の2種類があり、別々に配架しています。ある分野の図書を探す際には旧分類と新分類の両方をご覧下さい。

★参考図書は1階奥に配架しています。

★雑誌は、新着分(当年度分)・5～10年前の分・それ以前の分、と分けて配架しているものが多いのですが、雑誌によって違いますので、ご遠慮なく雑誌のカウンターでお尋ね下さい。

★新聞は新聞ラウンジに前日の夕刊と当日の朝刊を置いています。それ以前のものはカウンターで請求して下さい。



開館・サービス時間一覧

開館・貸出・入庫

	開 館 時 間		貸出・返却時間 ¹	地下書庫の検索 ²
月 ～ 金	9：00～21：00		9：00～19：00	9：00～12：00, 13：00～19：00
土	10：00～17：00		10：30～15：00	—————
短縮開館	月～金	9：00～17：00	9：00～16：00	9：00～12：00, 13：00～16：00
1／6 ～ 1／10	土	—————	—————	—————
7／21 ～ 8／4				
8／16 ～ 9／10				

* 1. 開架図書（2F）の貸出・返却は9：30（月～金）からです。

* 2. 教職員・大学院生の方は地下書庫の検索ができます。

休館日

☆日曜日

☆国民の祝日等（その日が日曜日のときは、その翌日）

☆本学創立記念日（6月18日）

☆図書整備等による休館日

4／1～4／5、8／5～8／15、12／25～翌年1／5

夏季休業期間中の土曜日

毎月末日〔末日が日曜日または祝日等にあたるときは、その翌日（土曜日にあたるときは、その翌々日）〕

・以上の他、必要に応じ、臨時に休館することがあります。

サービスと施設・設備の利用

サービス内容	月～金	土
レファレンス（参考調査）	9：00～12：00, 13：00～17：00	—————
情報検索	9：00～11：30, 13：00～16：30	—————
OPAC ¹ （オンライン目録）検索	9：00～18：00	—————
CD-ROM 検索 ²	開館時間と同じ	—————
カード目録室	9：00～19：00	10：00～15：00
文献複写（コピー）	9：00～12：00, 13：00～16：45	注 —————
他機関への紹介状発行および他機関への複写の申込等	9：00～12：00, 13：00～17：00	—————
A V ブース	：受付 9：00～11：45, 13：00～16：30	—————
	：利用 9：00～16：45	—————
貴重図書閲覧室	9：00～11：45, 13：00～16：45	—————
マイクロ資料・HRAF ³	9：00～11：45, 13：00～16：45	—————
テレックス	9：00～11：30, 13：00～16：30	—————
研究個室・共同研究室	9：00～16：45	—————
タイプ室	開館時間と同じ	
対面朗読室	9：00～20：45	—————
教官談話室	9：00～17：00	—————

* 1. Online Public Access Catalog の略。

* 2. Compact Disc—Read Only Memory の略。

* 3. Human Relations Area Files の略。

注 土曜日のコピーサービスはIDカード（校費専用）利用者に限ります。

夏・冬の短縮開館時には、終了時刻が繰り上がります。

《予約》

図書が書架にない時は貸出中かもしれませんのでカウンターでお尋ね下さい。貸出中になっている場合は予約することができます。図書が返却され次第館内掲示・電話でお知らせ致します。



《貸出更新》

図書の貸出期間を延長したい場合は、返却期限内に図書をカウンターに持参して下さい。予約がない限り1回更新できます。返却期限を過ぎると更新できませんのでご注意ください。

《学内に資料がない場合…》

他大学、研究所等に所蔵している資料ならばコピーや現物を取り寄せることができます。また、直接所蔵館を訪問して資料を閲覧することができますが、その際に必要な紹介状を発行しています。

是非図書館で購入して欲しい本がある、という時は、学生希望図書として購入することができます(対象：学部生・院生)。所定の申込用紙に記入してカード目録室のポストに投函して下さい。検討の上お答えします。

《書庫内検索》

院生・教職員の方は書庫に入って直接資料を検索することができます。カウンターで利用証と引き換えに入庫バッジを受け取って入庫して下さい。学部生の方は入庫できませんので、目録で請求記号を確認の上、カウンターで申し込んで下さい。

《その他》

タイプ室(2F,1室,3台)：開館時間内は自由に利用できます。

研究個室(3F,13室)：院生・教職員の方は、附属図書館の資料を使っての研究のために利用できます。ワープロを持ち込んで使用できる部屋もあります。利用期間は3日以内(更新可)です。

共同研究室(3F,2室)：教官が行なうグループ・スタディ等のために、20人規模の共同研究室が利用できます。利用期間は半日または1日(更新可)です。

研究個室、共同研究室とも是非ご利用下さい。尚、不明な点、分からないことがありましたら、ご遠慮なくカウンターでお尋ね下さい。

(資料運用掛)

お知らせ

土曜日も開館しています

平成4年5月より国家公務員の週休2日制が実施され、学内部局の業務は原則として休業、閉庁となりましたが、現在、附属図書館(中央図書館)、総合人間学部(旧教養部)図書館、法学部図書室、医学図書館で土曜日開館を行っています。各部局の開館(室)時間については、あらかじめお問い合わせの上ご利用下さい。

附属図書館の土曜開館は以下のようになっています。

開館時間 10:00～17:00

サービス業務：1階、2階配架図書・雑誌の閲覧、

貸出(10:30～15:00)、返却、複写(校費振替でカード使用のみ)

なお、書庫入庫検索及び書庫配架図書・雑誌の貸出、利用証の発行、視聴覚資料の利用、参考調査、相互利用業務等については、月曜日～金曜日にご利用下さい。

平成4年5月から9月までの附属図書館(中央図書館)の土曜日利用状況は次頁のとおりです。

休日明けの月曜日の利用は従来から他の曜日に比べて多かったのですが、土曜日の業務変更に伴い、前日の金曜日の貸出数・入庫検索者数が増加

【各土曜日の利用状況】

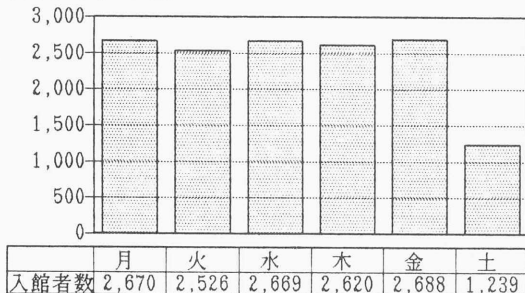
日	入館者数	貸出冊数	貸出人数
5 / 9	1,263	118	64
16	1,172	111	66
23	1,076	90	53
30	1,006	111	62
6 / 6	1,259	137	80
13	1,153	116	64
20	1,123	136	74
27	1,246	211	104
7 / 4	1,286	152	83
9 / 12	1,501	125	74
19	1,370	165	86
26	1,413	154	87
合計	14,868	1,626	897

※ 5月2日及び7月11日～9月5日の授業休業中の土曜日は休館

【曜日別一日平均入館者数】

(平成4年5月～9月)

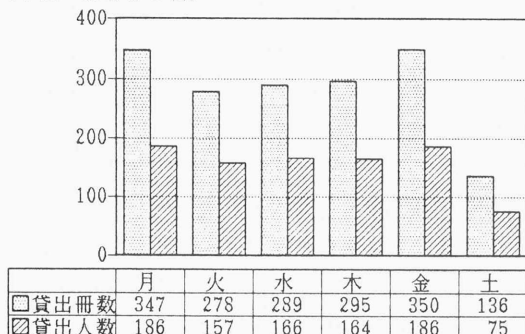
(単位: 人 / 1日)



【曜日別一日平均貸出冊数・貸出人数】

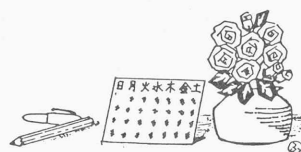
(平成4年5月～9月)

(単位: 冊、人 / 1日)



し、電話による問い合わせも多くなりました。

土曜日の利用状況は、入館者数一日平均1,239人、貸出冊数も136冊にのぼります。土曜日開館は利用者に好評をいただいておりますが、なお一層のご利用をお待ちしています。(資料運用掛)



オンライン目録検索に新機能が追加されました

附属図書館のオンライン目録検索サービス(OPAC/TSS; Online Public Access Catalog/Time Sharing System)に新しい機能が加わりました。

TTY手順(無手順)で利用されている方に、通信ソフトに合わせて使用する漢字コードの選択と画面のスクロール行数の任意の設定ができるようになりました。LOGON直後にシステムから「ENTER PROCEDURE NAME」というメッセージが表示される際に、JIS83文字を表示する端末の場合は「OPACPC」、またJIS78文字を表示する端末の場合は「OPACPC98」と入力して下さい。次にシステムからスクロール行数を入力するようメッセージが表示されますので、行数を入力して下さい。なお、事前に通信ソフトで使用する漢字コードの設定をして下さい。また、JIS83文字、20行スクロールでご利用の際は従来どおり「OPAC20」と入力して下さい。

詳細については、前号でお知らせしましたOPAC/TSSの改訂マニュアルをご覧ください(マニュアルご入用の方は参考調査掛までお申し出下さい)。(参考調査掛・システム管理掛)

3月で卒業、転職を迎える方へ

返し忘れた図書館の本はありませんか? 返却期限を過ぎていたら、返しにくいかも知れませんが、借りを残して去るのは寂しい事ですね。そろそろ自分の周りを振り返ってみましょう。(資料運用掛)

大型コレクションの購入が決まりました

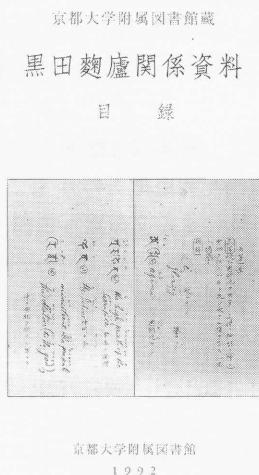
平成4年度大型コレクションとして『United States Supreme Court. Records and Briefs, 1832-1915 (アメリカ連邦最高裁判所 公判記録及び上訴趣意書全資料集1832-1915年 35ミリ マイクロフィルム1,088リール)』を購入することになりました。受入(3月予定)後は国際法政文献資料センター(法学部)に備え付けられます。

(図書受入掛)

黒田麴廬関係資料目録ができました

『ロビンソン・クルーソー』の本邦初訳『漂荒紀事』を著した蘭学者黒田麴廬の没後100年を記念して、附属図書館が所蔵する黒田麴廬関係資料の目録を作成しました。1F参考図書コーナーに備え付けてありますので、ご利用下さい。

(和書目録情報掛・洋書目録情報掛)



各大学図書館相互利用担当の方へ

NACSIS-ILLによる文献複写依頼について
のお願い

京都大学におけるNACSIS-ILLによる「受付館」は、現在、附属図書館と総合人間学部の2部局です。他の4部局の「受付館」では、従来どおり、郵送による受付となります。文献複写依頼は、文献を所蔵している部局の下表の「受付館」へお申し込み下さい。

また、当館参考調査掛が所蔵調査を行った場合は、必ず文献複写申込書に回答の内容(受付番号、所蔵場所、請求記号および登録番号)を明記して下さい。

なお、マイクロ撮影による複写依頼は、郵送でお申し込み下さいますようお願いいたします。

受 付 館	文献の所蔵部局
附属図書館	文学部、教育学部、法学部、 経済学部、理学部、工学部、 基物研、数研、東南ア研セ、 ILL + ㊞ 化研、大計セ、生態研セ、他
総合人間学部図書 ILL + ㊞	総合人間学部(旧教養部)、 大学院人間・環境学研 究科
医学図書館 ㊞	医学部、医短、ウイルス研、 放生研セ、生体医工研セ
薬学部図書室 ㊞	薬学部
農学部図書室 ㊞	農学部
人文科学研究所 附属東洋学文献 センター ㊞	人文科学研究所

注) ILL : NACSIS-ILL

㊞ : 郵便

(相互利用掛)

図書館の動き

展示会の開催

平成4年12月1日から9日にかけて洋学資料展「江戸期における翻訳の世界」が附属図書館展示ホールで開催されました。併設展として附属図書館所蔵の重要文化財等も展示され、「鈴鹿本今昔物語集」の修補過程も紹介されました。延べ1,146人の入場者があり、盛況のうちに終了しました。また、12月4日には関西大学教授宮下三郎氏による講演会「洋学の科学史」も開催されました。

鈴鹿紀氏に褒賞

附属図書館所蔵「鈴鹿本今昔物語集（9冊）」の寄贈者鈴鹿紀（おさむ）氏に平成4年10月31日紺綬褒賞並びに賞杯が贈られました。

大学図書館職員講習会の開催

平成4年11月30日から12月3日にかけて平成4年度大学図書館職員講習会（文部省主催）が附属

図書館A Vホールを会場として開催されました。西日本を中心として国公私立大学図書館に勤務する若手職員94名が参加し、附属図書館からも館長をはじめ6名が講師陣に加わりました。

協議会の開催

平成4年10月27日、国立大学図書館協議会常務理事会が附属図書館大会議室にて、翌28日には同協議会賞授賞者選考委員会、同協議会理事会が京大会館にて開催されました。

学術情報センターシンポジウムの開催

平成4年10月13日、薬学部記念講堂において平成4年度学術情報センターシンポジウムが「人文科学と情報処理システム」をテーマとして開催されました。前附属図書館長で現在は学術情報センター副所長の西田龍雄氏による「人文研究と言語研究」をはじめ五つの講演がありました。

目次

<巻頭記事>

「旭江文庫」の生みの親大賀寿吉氏のこと…1

<お知らせ>

土曜日も開館しています……………5

オンライン目録検索に新機能が追加されました…6

大型コレクションの購入が決まりました……7

黒田麴廬関係資料目録ができました……………7

<図書館の動き>

展示会の開催……………8

鈴鹿紀氏に褒賞……………8

大学図書館職員講習会の開催……………8

協議会の開催……………8

学術情報センターシンポジウムの開催……………8

<その他>

御存知ですか？ 附属図書館サービス紹介…3

各大学図書館相互利用担当の方へ

NACSIS-ILLによる文献複写依頼

についてのお願い……………7

3月で卒業、転退職を迎える方へ……………6

後記

今、図書館は。将来は。サービスは。私たちは何をすべきか。編集会議での一コマ。それ程むづかしい話はしていません。楽しい会議です。(吉)

読んで興味のもてる記事を掲載し、少しでも図書館を知ってもらおうと意気込んでいましたが、あまりできずに2年が過ぎてしまいました。(こ)